

地域循環共生圏「北信スマートテロワール」

マンガラ図



農業を核とした自立(自律)分散型農村による共(創)創ネットワーク

北信スマートテロワール

- 現在使われている肥料や農薬、除草剤などの残留度を調べる
- 自分達の土づくりにとって必要なことを知る機会をつくる。
- 大きな鉢植えによるエディブルガーデン(食べられる庭)をつくり、畑を身近なものとする。

例: 既存住宅ストックと近隣の村の森林資源を活用し、健康で環境に優しい新たな住宅景観を創出

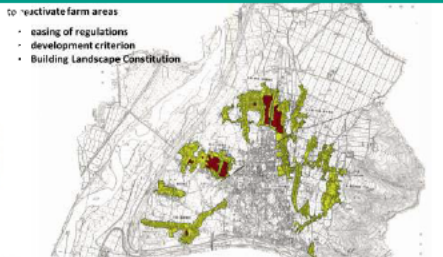


- 加工食材をさらに掛け合わせることによって健康で美味しい現代の信州食を開発。
- 地域企業に向けて、健康的で毎日食べたい信州食を提供。
- 多様な消費を生み出すことにより、消費のパターンを無限に生み出すレシピの検討。
- Amber LAB、伊那食品、サンクセールのなどの連携信州の加工食材をさらに掛け合わせるの食堂のチャレンジ。

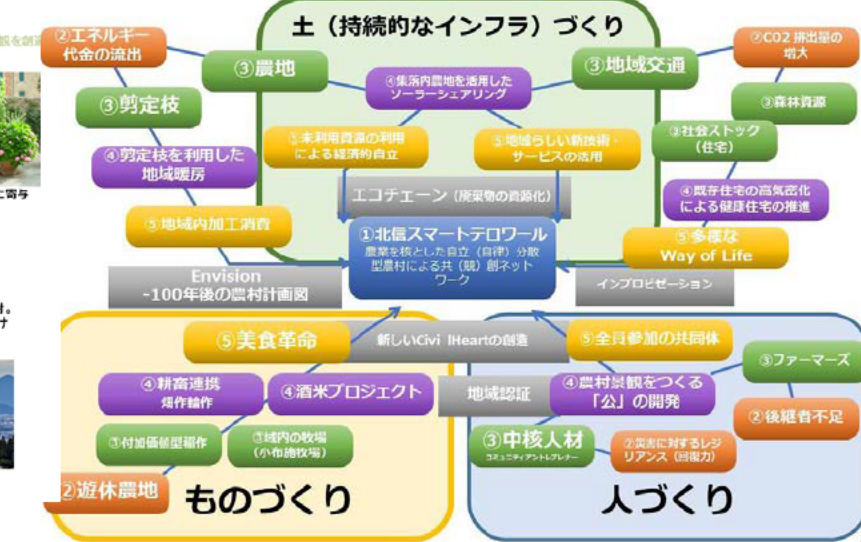


遊休農地を活用した新たなプロダクト開発

- 小市町村にも1.8haの遊休農地があり、今後増えていく可能性がある
- 町の北部に広がる水田を再編し、加工向けの農産物を生産。ただし、小市町村は農村景観をもちりたいので施設園芸は避けたい。
- 有力な加工業者、施設をデザインし、生産から販布まで一体的に考える。



戦略的都市計画と資源の掛け合わせ

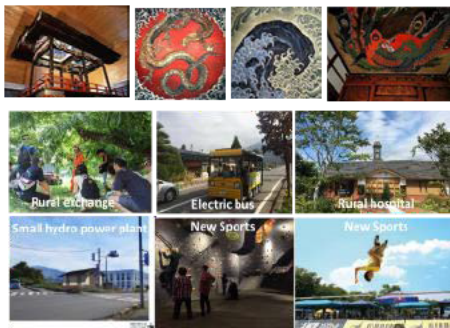


地域建材を用いたウェルネス(健康)住宅

- 周辺の森林の木材を活用(戦後60年を経て更新、造林計画を検討)
- 1980年以前、あるいは前後の住宅を対象に、高気密・高断熱化
- 県産材を用いることで、室内環境、景観にも寄与
- 暖かい住宅の実現により、環境以上に生活環境の向上として浸透を図る

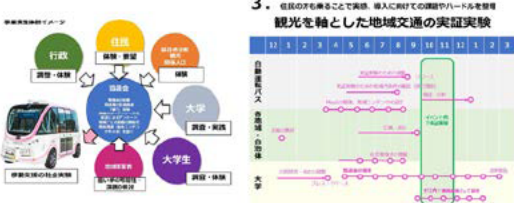
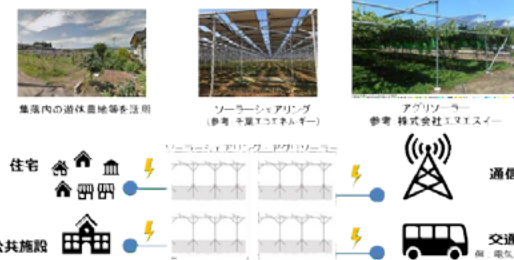


RE 100



〇環境にやさしくサステナブルなインフラ

- 集落内の農業とインフラの戦略的融合
- 農業振興地域以外の農地でのソーラーシェアリング(アグリソーラー)
- 施設園芸(シャインマスカット等)を中心として次世代の農業者様。
- 〇つくった電気を地域内で消費する(住戸、交通、通信)。



〇地域のレジリエンス 災害復興のための、しなやかな強さ

